

（第1面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和7年6月30日

札幌市長 様

提出者

住 所 〒060-0033

札幌市中央区北3条東1丁目

氏 名 北海道旅客鉄道株式会社 JR札幌病院

病院長 四十坊 典晴

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 011-208-7150

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	JR札幌病院
事業場の所在地	札幌市中央区北3条東1丁目
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	医療業 一般病院 [7311]
② 事業の規模	312床
③ 従業員数	522名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	感染性産業廃棄物＝専用の容器に入れ→収集運搬業者に委託→中間処理業者に委託し焼却処分→管理型埋立処分場

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
※別紙添付			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	排 出 量	121.900 t	0.327 t
	(これまでに実施した取組) ・感染防止対策室により各部門へ減量に向けた指導を行う。 (感染性産業廃棄物＝一般・コロナ患者増のため廃棄物が増加した。 廃液類についても検査件数増により増量となった。)		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	排 出 量	122.000 t	0.400 t
	(今後実施する予定の取組) ・感染性産業廃棄物＝①感染防止対策室の更なる指導と、減量についても安全性を考慮し指導を行う。(今後も一般・コロナ入院患者の対応を行うため大幅の減量は望めない。)		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 感染性産業廃棄物＝環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部作成 「感染性廃棄物処理マニュアル」に則り、①鋭利物 ②固形物 ③液状 ・泥状バイオハザードマークを用いて安全に配慮し分別を行う。 ・各診療部署の発生量に応じて4種類の容器を使い分けている。		
	② 計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・感染性産業廃棄物については現状の分別管理を継続する。 ・院内感染や医療従事者の事故防止、安全の確保を最優先とする。	

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	全 処 理 委 託 量	121.900 t	0.327 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	121.900 t	0.327 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・委託基準に従って、許可を持った産業廃棄物処理業者に委託している。 ・契約時に処理業者を訪問し、施設と処理方法を確認している。 ・処理に関しては、信頼の高い処理業者を選定している。		

② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性産業廃棄物	廃油
	全 処 理 委 託 量	122.000 t	0.400 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	122.000 t	0.400 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
・感染性廃棄物の取り扱いの指導を強化する。			
・感染防止対策室による勉強会を実施すると共に、適正な処理と減量に努めるよう指導する。			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和5年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	t	
	(今後実施する予定の取組等)		
電子マニフェストを使用。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模がわかるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。